

ひもと
繙かれた作品たち

「初お目見えコレクション」展

会期: 2017年4月8日(土)~7月2日(日)

会場: < GAS MUSEUM がす資料館>ガス灯館2階「ギャラリー」

ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、2017年度第一回企画展として、2017年4月8日(土)から7月2日(日)までの期間、『繙(ひもと)かれた作品たち「初お目見えコレクション」』展を開催します。

<GAS MUSEUM がす資料館>は、2017年4月で開館五十年を迎えます。

1967年4月29日に小平の地で開館して以来、多くの方にご来館頂くことが出来ました。

展示会では、近年新たに収藏した開化東京の新名所を取り上げた作品や、井上安治の大判作品、明治12年に上演された芝居「漂流奇譚西洋劇」を描いた作品の他、東京ガスの施設を描いた作品など、これまで展示活動を通じて所蔵したさまざまな資料の内、展示会で紹介する機会が無かった作品を中心に、近年収藏した資料と合わせ、さまざまなジャンルの作品を一堂に公開致します。

GAS MUSEUM がす資料館

■展示作品一覧

【展示解説】

学芸員 高橋 豊



1)筋違御門内人力車繁榮

昇斎一景

明治4年(1871)



2)東京名所 江戸橋郵便局真景

楊堂玉英

明治24年(1891)

明治25年(1892)に竣工した、江戸橋脇に立てられた郵便局の建物が描かれています。作品は竣工する前に発行されていますが、かなり正確に描かれています。建物の左側には第一国立銀行の建物が見えますが、明治31年(1898)に取り壊されてしまいます。郵便局の建物も関東大震災で焼失してしまいました。

3)東京名所之内 九段坂靖国神社境内一覽之図

歌川国利

明治14年(1881)

明治2年(1869)に招魂社として、戊辰戦争の戦死者を鎮魂するために創設されました。明治12年(1879)に靖国神社と改称されました。

作品には明治5年(1872)建立の本殿手前に、現在の第二鳥居付近にあった鳥居が大きく描かれています。

4)東京目貫銘勝 日本ばし朝市の繁栄

歌川政信

明治18年(1885)頃



5)第二番目狂言 漂流奇譚西洋劇 三幕目 アメリカ鉄道の場

安達吟光

明治12年(1879)

6)第二番目 六幕目 漂流奇譚西洋劇

フランスの場

安達吟光

明治12年(1879)

作品は明治12年(1879)に新富座で上演された、「漂流奇譚西洋劇(ひょうりゅうきよせんげき)」の一幕を描いています。

作品は駿河沖で遭難した登場人物たちが外国船に助けられ、アメリカやイギリスを舞台とし、最後にパリで再会するというあらすじです。

この劇では、劇中劇として外国人役者によるオペラが

上演されるといった、西洋化に傾いた作品でしたが、人々には受け入れられず途中で打ち切られてしまいました。

7)吾妻橋

井上安治 明治21年(1888)

井上安治が明治21年(1888)に再び手がけた、開化東京の風景を描いた作品の一つです。

このほか「皇城二重橋」「新吉原夜桜之景」の2点を描いており、いずれも横大判サイズ、英文表記のある作品です。

作品の吾妻橋は、明治20年(1887)12月9日に改架した鉄橋で、竣工直後の様子が描かれています。



8)瓦斯燈いろいろ

川上澄生 昭和38年(1963)

9)瓦斯燈いろいろ(異版)

川上澄生 年代不明



10)昭和大東京百図絵版画完制判

第四景 千住タンク街

小泉癸巳男 昭和5年(1930)

作品に描かれているのは、千住にあったガス工場の3つのガスホルダー(ガスタンク)で、この形は「有水ガスホルダー」と呼ばれます。

このガスホルダーの構造は、水槽の中に入れ子になった円筒形の容器が沈められており、ガスが溜まると容器が持ち上がり、溜まっているガスの量によってガスホルダーの高さが変化し、上下する容器の間は水が栓の役割をしています。

かつては日本のほとんどのガスホルダーがこの構造でしたが、現在は球形のガスホルダーが活躍しています。

11)昭和大東京百図絵版画完制判

第五十四景 城東区 砂町風景

小泉癸巳男 昭和9年(1934)

手前に大きく描かれたクレーンの背景にそびえる、円筒形の建築物はガスホルダー(ガスタンク)です。この形のガスホルダーは「無水ガスホルダー」と呼ばれ、内部には落としづたのような円盤状の板があり、ガスが送られてくると板が上昇して空気と入れ替わり溜まります。

「有水ガスホルダー」と異なり、密閉された容器の中に貯めるため簡単な構造をしていますが、内部の板には精密な動きが要求されました。

12)夏盛

棟方志功 年代不明

13)がす資料館 記念皿絵原画

脇田 和 昭和41年(1966)

脇田 和(わきたかず)氏は、明治41年(1908)の東京生まれ、十五歳の時ベルリンに渡り、十七歳でベルリン国立美術学校に入学しました。

昭和5年(1930)に帰国してからは、戦争を挟んだ後も数多くの作品を制作され、平成17年(2005)に九十七歳で逝去されるまで創作に取り組みました。

展示作品は、昭和41年(1966)12月に、当館ガス灯館落成記念絵皿の原画として描かれた作品です。

14)絵葉書用原画 がす資料館

近岡善次郎 年代不明

15)絵葉書用原画 銀座通

近岡善次郎 年代不明

16)絵葉書用原画 金杉橋

近岡善次郎 年代不明

17)絵葉書用原画 ガス灯・ガスランプ

近岡善次郎 年代不明

18)絵葉書用原画 ガストーブ

近岡善次郎 年代不明

近岡善次郎(ちかおかぜんじろう)氏は、大正3年(1914)に山形県新庄市に生まれ、一水会会員として活動するなか、戦後各地に残る西洋建築を描き始め、昭和55年(1980)には「西洋館の旅」全九巻として刊行しました。

また作品は昭和56年(1981)から昭和59年(1984)にかけて発行された、「近代洋風建築シリーズ切手」20種にもなっています。

平成19年(2007)に九十二歳で逝去され、現在は新庄市名誉市民に選ばれています。

展示作品は当館開館後に収蔵資料を描いて頂き、絵はがきの原画とした作品になります。



19)官許 観光燈廣告

明治16年(1883)頃



20)越後国七不思議ノ内ニツ 蒲原郡柄目木の火

人飲ノ快二 嘉永 2 年(1849)

長久保赤水(ながくぼせきすい)が宝暦10年(1760)に水戸を出発し、東北各地をめぐりまとめた紀行文が「東奥紀行(とうとうきこう)」で、巻末に「北越七奇(ほくえしちぎ)」が収録されています。

「北越七奇」は越後の七不思議を紹介したもので、その一つに「火井(かせい)」と紹介された、越後国蒲原郡柄目木(がらめき)村(現在の新潟県新津市)附近の地中から出る、天然ガスのことが紹介されています。この地では他に「臭水(くさふす)」の名称で、石油が取れることも記されています。

21)武州横浜於應接所饗應之図

作者不詳 嘉永 7 年(1854)頃

作品は嘉永7年(1854)3月8日に横浜で催された、日米和親条約会談の席に提供された宴の様子が紹介されています。

料理を提供したのは日本橋の料亭「百川(ももかわ)」で、「酒饌膳(しゅせんぜん)」(お酒の席のための料理)、「本膳」合わせて百種類を越える料理を提供し、二千両の費用で請け負いました。

作品上段には提供された料理の紹介、下段ではペリー一行らを応対する袴(かみしも)姿の日本人たちが描かれています。



22)引札 原動力瓦斯機関

年代不明

明治40年代に東京ガス(株)が、ガスエンジン宣伝のために制作した引き札です。

中央に描かれている大黒様は農業の神様で、米俵に乗った姿で紹介されることが多く、大黒様とねずみがガスエンジンを動かして、米の脱穀を行う構図が見て取れます。

周囲には紹介文と合わせて、ガスエンジンを動力とするさまざまな機械が描かれ、一目で活用方法が分かるようになっています。

23)開化進歩日用双六

歌川広重(三代) 明治12年(1879)

開化風物を取り上げた双六です。

中央下の「婦りはじめ(振り出し)」から、「点消方」や「郵便配達夫」「人力車夫」などの新しい職業に携わる者や、「鉄道」「新聞」「銀行」などの新しい産業がマス目に描かれています。

展示作品は発行年が抜けていますが、他の施設の所蔵作品から、明治12年(1879)であることが推測できます。

24)三代広重大錦版下絵

歌川広重(三代) 年代不明

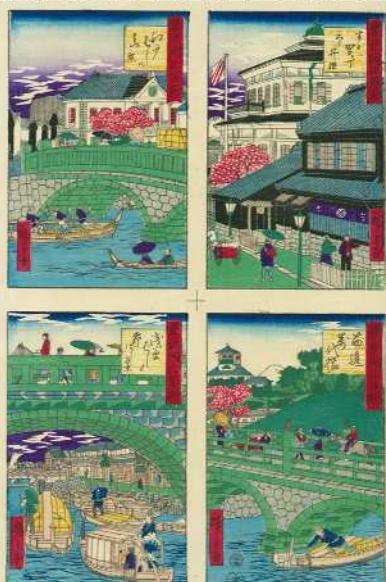


25)東京の花 纏尽し名勝合 浅草金龍山

豊原国周 歌川広重(三代)明治 8 年(1875)

役者絵と風景画を貼り混ぜた構図の作品になります。作品に描かれている役者は、天一坊(將軍吉宗のご落胤を名乗る)を演じる五代目尾上菊五郎で、作品の発行年より「扇音音大岡政談(おうぎびょうしおおかせいだん)」(後の「天一坊大岡政談」)を取り上げていると推測できます。

劇では大岡越前守と天一坊のやり取りが見せ場ですが、史実上は大岡越前守は関わりありませんでした。



26)東京開化名所 する賀丁三井館 江戸ばしの真景

筋違萬代橋 浅草ばしより柳ばしの景

歌川広重(三代) 明治 7 年(1874)



27)東京花名所 ほり切の里花菖蒲 品川海案寺紅葉見

歌川広重(三代) 明治12年(1879)

明治東京の花の名所を描いた作品です。

中判の作品には「堀切の菖蒲」「品川海案寺の紅葉」が取り上げられており、他に「入谷の朝顔」「染谷の作り菊」など合計十点の作品があります。

28)花鳥競 蓮 驚

琳斎

明治15年(1882)



29)花鳥団会 蓮さぎ もみぢおしどり

永島春暁

明治21年(1888)

江戸時代より絵画の題材の一つとなっていた花鳥画ですが、錦絵でも多くの作品が制作されました。

展示作品は明治時代の作品ですが、伝統的な表現方法で制作されています。

一方、明治に活躍した小林清親は、西洋画の表現を木版画で再現する花鳥画を残しています。



30)東京三絶景 両国之名月

矢島徳三郎 明治23年(1890)

両国橋の向こうの東の空に、満月が浮かぶ夜の風景を描いた石版画です。

「東京三絶景」と題名にもありますが、展示作品の他に「上野の雪」「墨堤の桜」を取り上げた作品があり、いずれも当館で所蔵しています。



31)東京名所 御茶ノ水ヨリ水道橋ヲ望

寿昇

年代不明

二十点の作品からなる、石版画で制作された東京風景が描かれています。

発行年は分かりませんが、他の作品では歌舞伎座や愛宕塔が描かれたものがあることから、明治22年(1889)以降の発行であることが推測できます。

いくつかの作品に「寿昇」のサインが記されていますが、詳細は不明です。

おもな参考文献

少年産業博物館 日本のガス 中村秀夫(株) ポプラ社 1959年
がす資料館年報 No.11 東京ガス(株) 1989年

川上澄生全集 第14巻 川上澄生 中央公論社 1979年

図録「昇斎一景」展 町田市立博物館 1993年

GAS MUSEUM がす資料館 企画展ご案内郵送申込について

ご来館ありがとうございます。これから3ヶ月ごとに開催されます、「GAS MUSEUMがす資料館 企画展」のご案内はがきの郵送をご希望の方は、官製ハガキに ①氏名 ②連絡先住所 ③年齢 ④電話番号 ⑤感想・意見 ⑥今後希望する企画展、をご記入の上、下記の住所までお申し込みください。
次回より約1年間、毎企画展ごとにご案内ハガキを無料で郵送します。

(ハガキ持参で来館された方は、そのまま継続して登録されます)

〒187-0001 東京都小平市大沼町4-31-25 GAS MUSEUMがす資料館「ご案内ハガキ」係

TEL(042)342-1715 FAX(042)342-8057

《当館のお客様情報(個人情報)は、当館イベント運営に必要な業務を含め、当館に関連する企画、及びサービスのご案内のために使用いたします。》